

ULVACの強み

強み1 研究開発

中長期的な視点で持続的に価値を創造

ULVACは真空技術をコアとしたイノベーションの創出・共創の推進をマテリアリティに位置付けるとともに、持続可能な社会の実現に向けた技術開発を進めています。気候変動や環境問題等の社会課題に対応するため、半導体や高機能な電子デバイスが必須であり、当社グループの持つ真空薄膜形成技術が、これらのデバイスを製造するための核心技術となるよう、開発を進めていきます。そのため、多様な企業や研究所等とのビジネスパートナーシップ等も通じて、開発体制を構築します。また、先進的技術の獲得を目指し、長期にわたって持続的に成長する基盤づくりに努めます。具体的には、グローバルなネットワークインフラ基盤やデジタル社会の構築に伴う5Gから6G、IoTの進化、地球温暖化や気候変動等の社会課題にいち早く対応する努力をします。

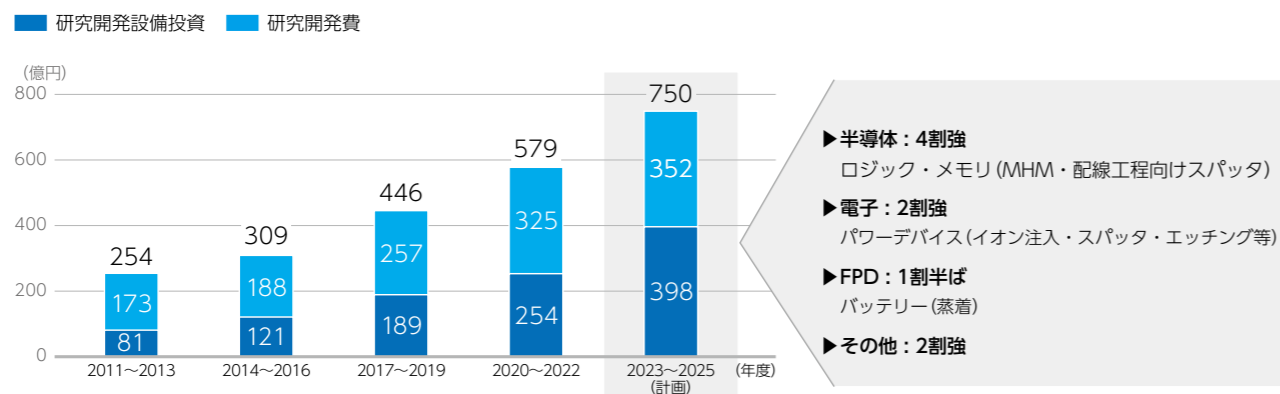
主なテーマ

- ・先端ロジック
- ・NAND/DRAM
- ・次世代バッテリー
- ・パワーデバイス
- ・電子部品 (MEMS、センサー)
- ・オプトデバイス (μOLED、μLED)
- ・パッケージング (WLP、PLP)

設備投資及び研究開発費の推移・計画

研究開発投資 (研究開発用設備投資+研究開発費) は成長分野である半導体及び電子部品製造装置を中心に中期経営計画期間3年間で750億円を計画しています。

研究開発投資推移 (3年合計)



TOPICS 関連するSDGs 4 質の高い教育をみんなに 9 産業と革新を通じて持続可能な成長を促進する 17 パートナーシップを世界に広げる

アルバック先進技術協働研究拠点を東工大に設置

2021年9月22日、株式会社アルバックと国立大学法人東京工業大学 (以下「東工大」) は、東工大大岡山キャンパス内に「アルバック先進技術協働研究拠点 (以下「協働研究拠点」)」を開設しました。これまでも個別の研究で共同研究を進め成果を上げてきましたが、更に企業と大学という組織単位での連携を強めるために、東工大のオープンイノベーション機構の支援のもと、設置の運びとなりました。

協働研究拠点では、東工大の持つプラズマ測定技術とAI技術を融合させ、これまで計測できなかったプラズマの状態を計測することにより、まずプラズマプロセス装置の高性能化を目指します。異なる分野の研究室のシナジー効果で、個別の共同研究では得られない新たな研究成果が生まれることを期待しています。また組織対組織の連携を活かし、共同研究のみにとどまらず人材育成等も含めた幅広いつながりで、アルバックと東工大双方の将来の発展につなげていきます。

詳細 WEBサイト>>ニュースリリース

強み2 グローバルネットワーク

世界の産業発展を支えるソリューションネットワーク

日本国内はもとより、東アジアを中心に、最適な開発・販売・製造・サービスのネットワークを構築しています。開発についてはグローバルな開発体制を活かし、世界のリーディング企業や先端研究機関との共同開発を推進しています。

日本



中国



韓国



台湾



モノづくりについては、日本、中国、韓国、台湾を主とした生産体制を拡大してきましたが、今後は最適生産を更に推し進めることで生産効率を向上していきます。また、各拠点でそれぞれが地域サプライチェーンを構築していることに加え、グローバル・サプライチェーンの再構築による最適調達を行っていきます。

詳細 WEBサイト>>サポート>販売拠点一覧

詳細 WEBサイト>>サポート>サービス拠点一覧

強み3 カスタマーサポート

グループのノウハウを結集したULVAC CSソリューションズ

国内外のカスタマーサポートネットワークを通じて製品ライフサイクルのあらゆる場面で顧客が満足される生産活動のサポートを行っています。コンポーネントも含めた一括メンテナンスや、改造・改善提案を行い、更には顧客のニーズを新たな装置開発にフィードバックすることで、より高度な真空技術やサービスの創出も目指します。また、IoT機器を活用したリモート型カスタマーサポートのパッケージを拡大展開していきます。

